

横浜市インフルエンザ流行情報 7 号

横浜市健康福祉局健康安全課 / 横浜市衛生研究所

《トピックス》

インフルエンザ流行警報が発令されました。

【概況】

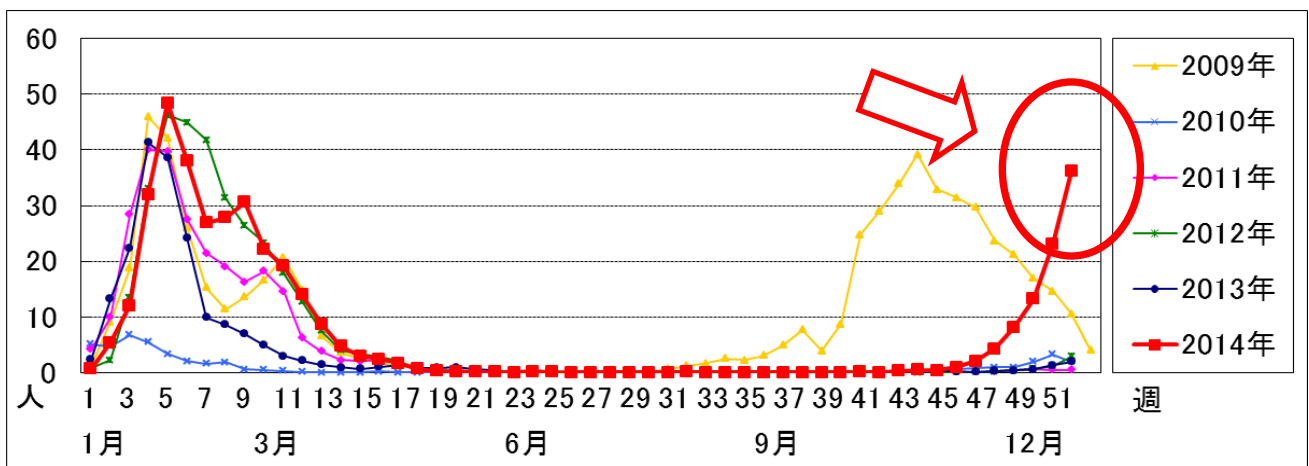
2014 年第 52 週(12 月 22～28 日)の定点^{※1}あたりの患者報告数は、横浜市全体で **36.12** と、警報発令基準値 30.00 を上回りました。**昨シーズンより 4 週早い警報発令**です。区別では**瀬谷区 55.14**、**港南区 51.29**、**都筑区 50.29** で特に多くなっています。**インフルエンザによる入院患者数やインフルエンザ脳症も増加**しており、重症化にも注意が必要です。

第 52 週の迅速キットの結果は依然としてほぼ全例が **A 型(99.3%)** で、流行の主体は全国同様 **AH3 亜型(A 香港型)** です。いままでのところ市内で検出された株では**主な薬剤への耐性は確認されていません**。ワクチン接種だけでなく、手洗いや早期受診などの対策^{※2}が重要です。

※1 定点・定点とは、毎週インフルエンザ患者発生状況を報告していただいている医療機関(市内約 150 か所)のことで、そこから報告された患者数の平均値が定点あたりの患者報告数です。

※2 [インフルエンザ予防チラシ\(横浜市\)](#)

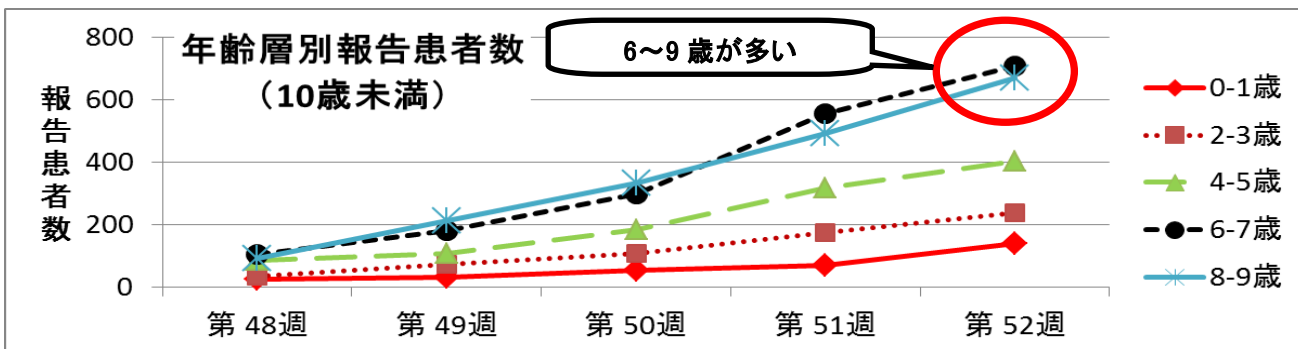
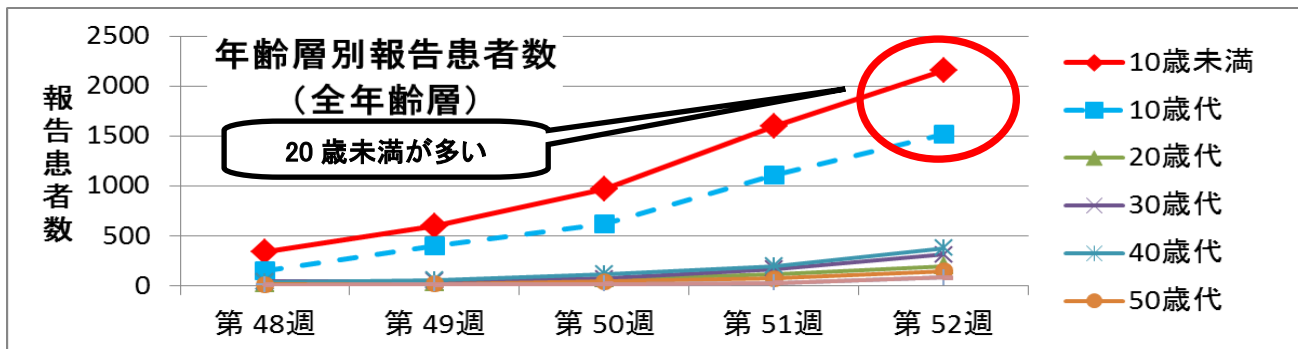
1 市内流行状況:市全体の定点あたりの患者報告数は、第 51 週 23.15^{※3} から**第 52 週 36.12** と急激に増加しています。



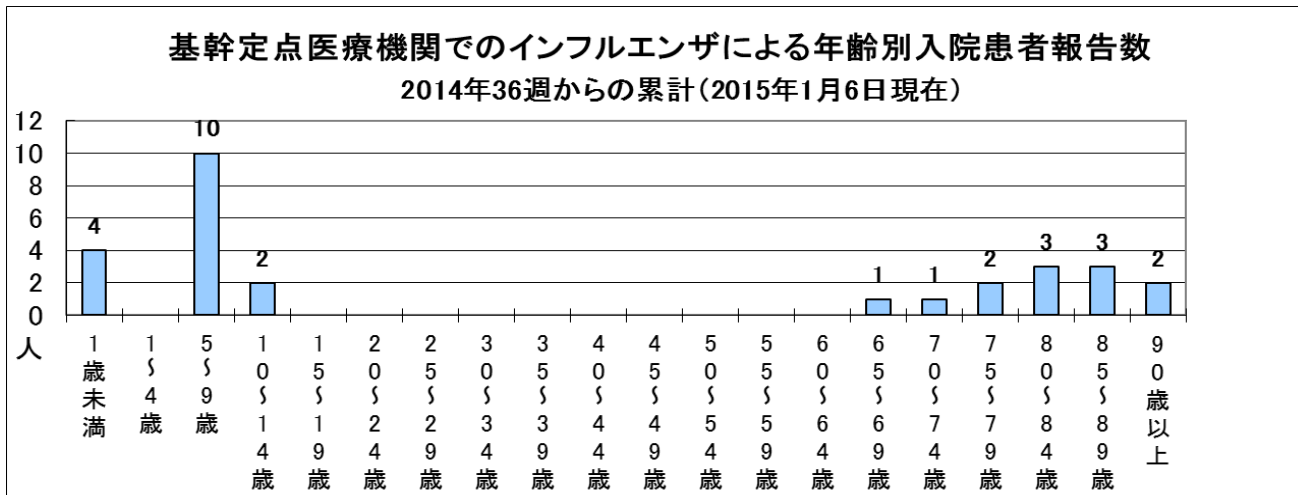
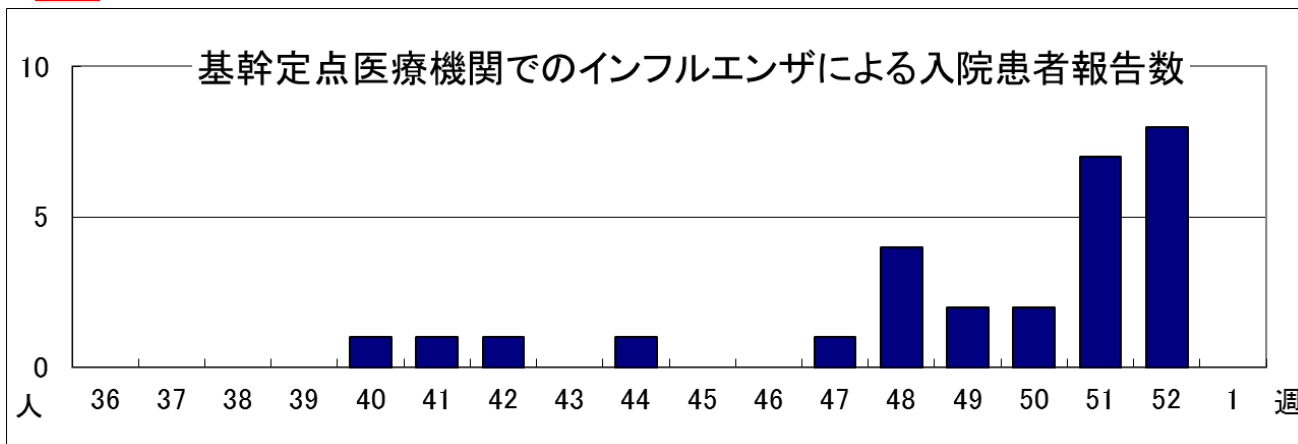
※3 第 51 週 23.15・前回の流行情報では第 51 週 21.96 と報告しましたが、その後医療機関から追加報告があり、数値が変動しました。

参考:近隣自治体の流行状況 [東京都](#)、[神奈川県](#)、[川崎市](#)

2 年齢層別患者報告数:直近5週間(第48~52週)では、依然として **20歳未満の増加**が著しくなっています。直近5週間の累計では **20歳未満の患者が全体の79.6%**を占めています。また、10歳未満の報告の内訳を見てみると、**6~9歳**が最も多くなっています。



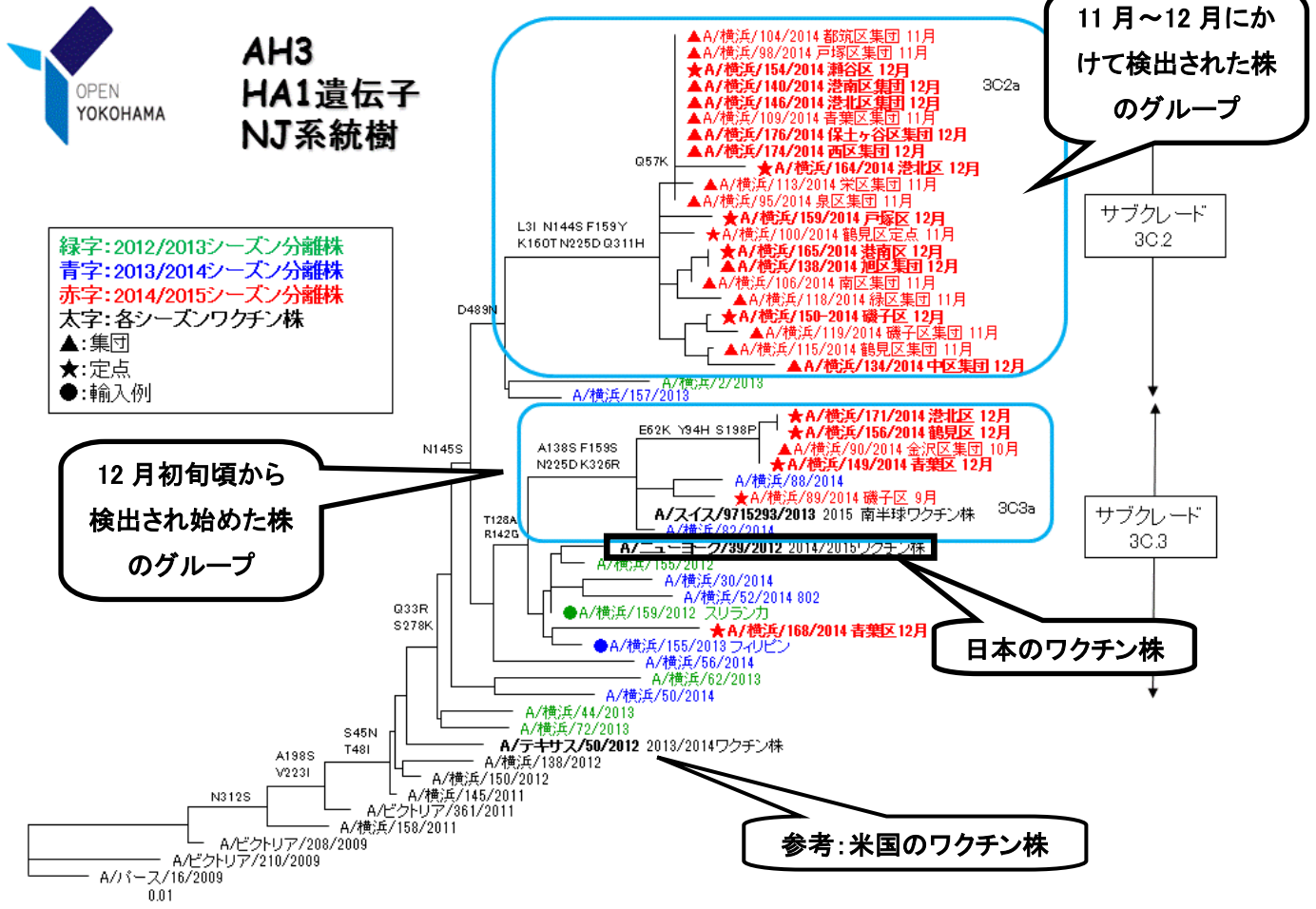
3 入院サーベイランス:市内基幹定点医療機関^{※4}における、インフルエンザ入院患者は第47週以降継続して報告されていますが、第51週を境に大幅に増加しています。患者は**小児と高齢者**です。



※4 基幹定点:患者を300人以上収容する病院(小児科医療と内科医療を提供しているもの)の中から、地域ごとに指定された医療機関のことで、市内には4つの基幹定点があります。

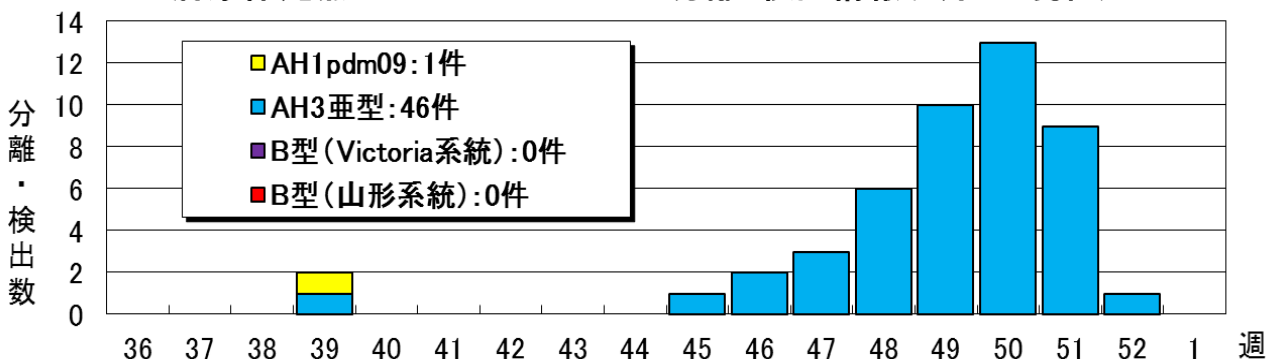
4 インフルエンザ脳症:第 51 週に報告が 4 件(幼児 2 件、乳児 1 件及び成人 1 件)ありました。内容は、届出順に①幼児:迅速キット A 型、予防接種歴不明②成人(40 歳代):迅速キット A 型、予防接種歴不明③幼児:AH3 亜型株検出、予防接種歴(-)④乳児:AH3 亜型株検出、予防接種歴(-)でした。今後、流行の継続が予測されるので重症化に注意が必要です。

5 インフルエンザウイルス(AH3)の遺伝子解析:今シーズンの 11 月から 12 月にかけて検出された株のグループは、ワクチン株とアミノ酸がいくつか異なるグループに属していましたが、**12 月初旬以降、ややワクチン株に近いグループの株が検出され始めました。このグループに属する 3 株を、国立感染症研究所で抗原性解析(HI 試験)したところ、HI 価 2~4 倍でした。**一般的に 4 倍以内でワクチン株と類似していると言われてています。年明け以降どのように流行株の状況が変化していくのか注意深く観察していく必要があります。

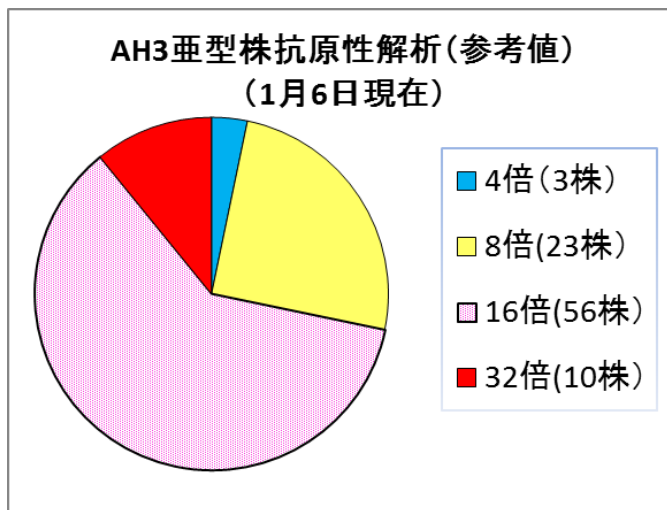


6 市内病原体検出状況:市内では病原体定点から今シーズン計 47 件インフルエンザウイルスが分離・検出されていますが、第 39 週に AH1pdm09 が 1 件検出されて以降は**すべて AH3 亜型**です。

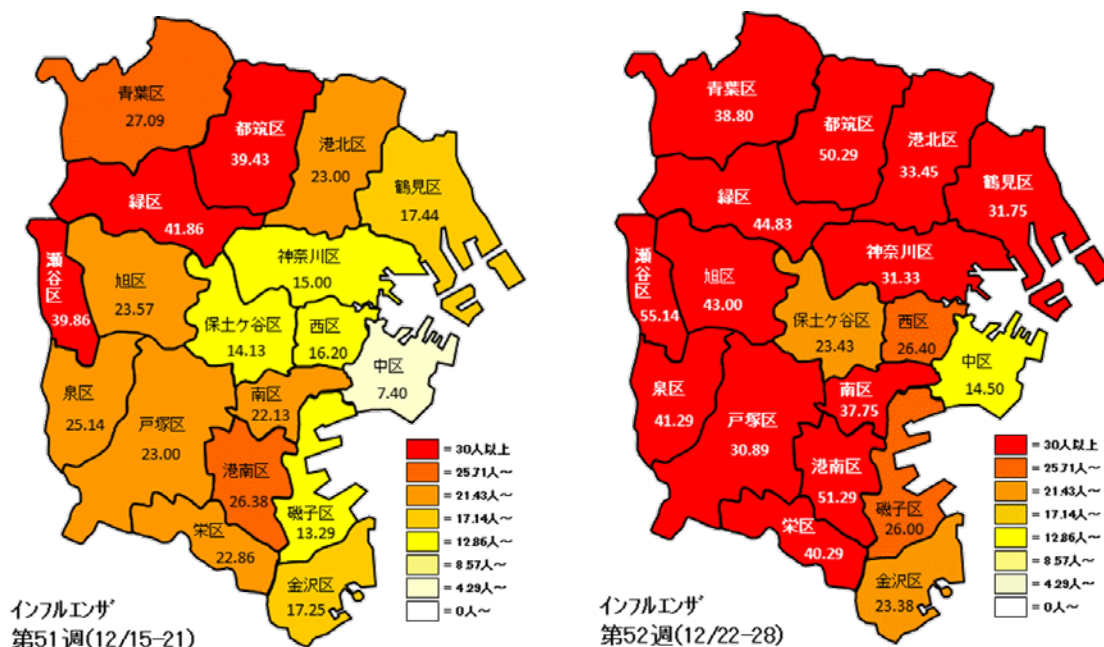
病原体定点からのインフルエンザ分離・検出情報(1月6日現在)



7 分離株の抗原性解析と薬剤感受性検査:
 市内で検出された AH3 亜型株(病原体定点以外も含む)のワクチン株との抗原性解析(HI 試験)では、**ほとんどの株が HI 価 8 倍以上**でした。一般的に 4 倍以内でワクチン株と類似していると言われています。ただ、今回の解析にはウサギの血清を使っており、参考値です。正確な結果は国立感染症研究所での分析を待つ必要があります。薬剤感受性試験では、横浜市内の株で今シーズン検査した範囲では、**主な薬剤への感受性低下は認めていません。**



8 地図で表した直近 2 週間の区別流行状況(塗り分けの数字は定点あたり報告数)



【お問い合わせ先】 横浜市健康福祉局健康安全課 TEL 045(671)2467
 横浜市衛生研究所感染症・疫学情報課 TEL 045(370)9279